

資料 5 - 3

平成 16 年 11 月 16 日
水産総合研究センター
水産庁栽培養殖課

新潟県中越地震にかかる錦鯉養殖業への技術的対応について

独立行政法人水産総合研究センターでは、本部の調整の下に中央水産研究所及び養殖研究所からなる対応体制を確立。錦鯉及びその養殖施設の被害状況の把握並びに今後の対応を協議するため、被災地へ担当官を派遣。

新潟県内水面試験場からの魚病対策等の飼育技術にかかる支援要請に対応。

1. 被害状況について

- (1) 新潟県中越地方山間部（小千谷市、山古志村）は、国内有数の錦鯉産地。
- (2) 山古志村、小千谷市等で養殖地の崩落、越冬用水槽の損壊等による被害が発生。

2. 対応について

- (1) 現在までの対応状況は以下のとおり。
養殖錦鯉の被害状況の把握及び今後の技術的な支援等のため、11月1日及び2日に、水産庁担当官に同行して、中央水産研究所内水面研究部担当官を現地に派遣。

11月1日から新潟県現地支援対策室に水産庁担当官を派遣し、連絡体制を整備。

11月2日にヘリコプターによる現地被害状況把握を実施。

錦鯉養殖業者からの技術的相談に対する窓口を長岡市にある新潟県内水面水産試験場に設置し、魚病対策等の飼育技術にかかる相談については、独立行政法人水産総合研究センターがバックアップする体制を整備。

11月10日及び11日にヘリコプターにより再び現地被害状況を把握（別紙）。あわせて調査に立ち会った養鯉業者の親鯉の搬出にも協力。

- (2) 現在までにある程度の親鯉は救出できたが、当面は越冬用の施設の確保並びに越冬中の疾病防除等の飼育管理が課題。今後、県との連絡を密にししながら更なる対応につき検討。



越冬槽のハウス。堅
牢な構造により崩壊
を免れているよう
である。



外見上問題ないよ
うに見えるが、コン
クリート壁には亀裂
がいたる所に入り
、歩くのも困難な
状態である。



漏水によりへい死
した当才魚と思わ
れる。乾涸らびた
状態から見て震災
直後に漏水したも
のである。



水の中でへい死した鯉が腐乱し、異臭を放っていた。



鯉救出のために池から取り出す養殖業者。新潟県大塚参事も加わって作業にあたる。



網で鯉を1カ所に集める。



小千谷市 梶金上空。



昨日(11/10)、被害状況調査と鯉の救出を行った山古志村虫亀地区。



昭和40年後半から水田から転用し養鯉池は飛躍的に増加したとのこと。その大部分が斜面崩壊などにより損害を被っている。